

児童ポルノ事犯の「自画撮り被害」が増加

～子どもたちが「自画撮り被害」に遭わないように～

「児童ポルノ事犯」…児童ポルノの画像や動画の所持、公開、製造など
「自画撮り被害」…だまされたり、脅かされたりして児童が自分の裸体を撮影させられた上、メール等で送られる被害

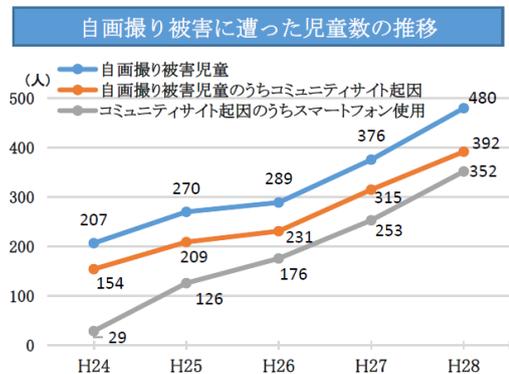
※被害児童数など、以下の数字はすべて全国のものです。

1 自画撮り被害が増加

平成28年における児童ポルノ事犯の自画撮り被害に遭った児童数は480人であり、平成24年(207人)から毎年増加しています。

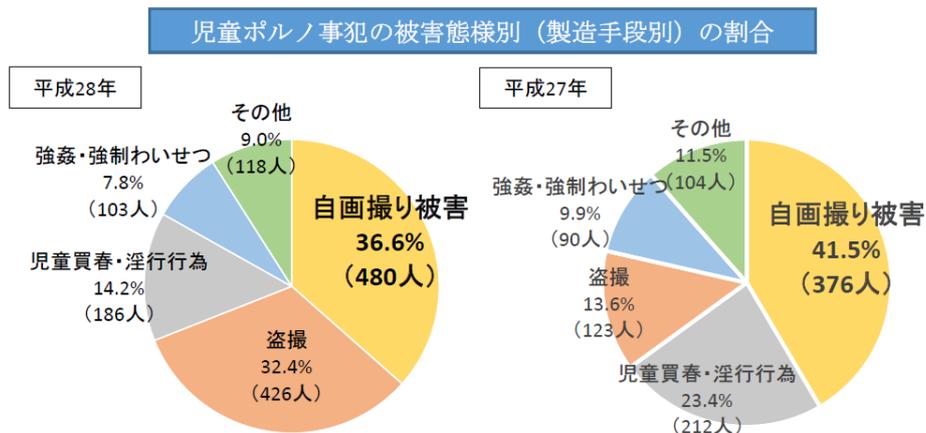
自画撮り被害は、コミュニティサイト(※)に起因するものが約8割を占め、また、スマートフォンを使用してコミュニティサイトにアクセスしたことに起因するものが約7割を占めています。

(※)SNS、プロフィールサイト等、ウェブサイト内で複数人とコミュニケーションがとれるウェブサイト等のうち、出会い系サイトを除いたものの総称



2 被害児童の約4割が自画撮り被害

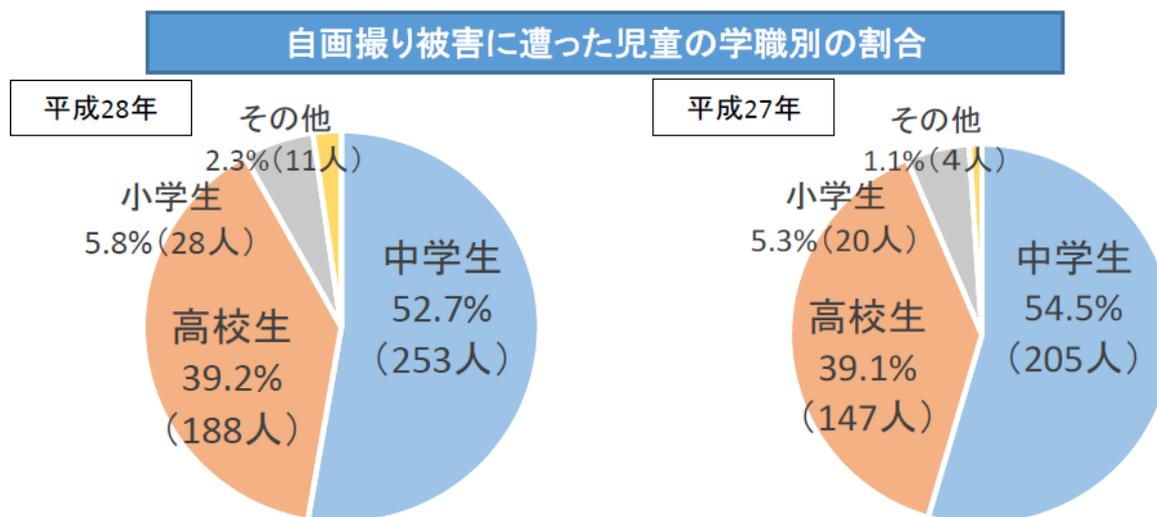
被害態様別(製造手段別)では、児童ポルノ事犯の被害児童の約4割が自画撮りの被害です。(H28年:36.6%、H27年:41.5%、H26年:38.7%、H25年:41.8%、H24年:39.0%)



※「淫行行為」は、青少年育成条例違反(淫行行為)をいう。

3 自画撮りの被害児童の半数以上が中学生

自画撮り被害に遭った児童の52.7%が中学生、39.2%が高校生です（平成28年）。



4 自画撮り被害に遭わないために

- (1) 自分の裸をスマートフォン等で撮影しない。
- (2) 交際相手、友達等の信用している相手であっても、自分の裸の写真を送らない。特に、面識のない者（SNSの相手等）に対しては、絶対に写真を送らない。

※デジタル写真は、コピーが容易であり、一度写真がインターネット上に流出すると、不特定多数の者に繰り返しコピーされ、すべての写真を削除することは非常に困難です。

- 友達等に裸の写真を送るよう求めたり、友達等の裸の写真を送ったりするほか、友達等の裸の写真をスマートフォンに保存した場合には、児童買春、児童ポルノ禁止法違反の被疑者として検挙・補導されてしまうおそれもあります。

《出典：警察庁ホームページ》

http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen/no_cp/measures/child_pornography.html